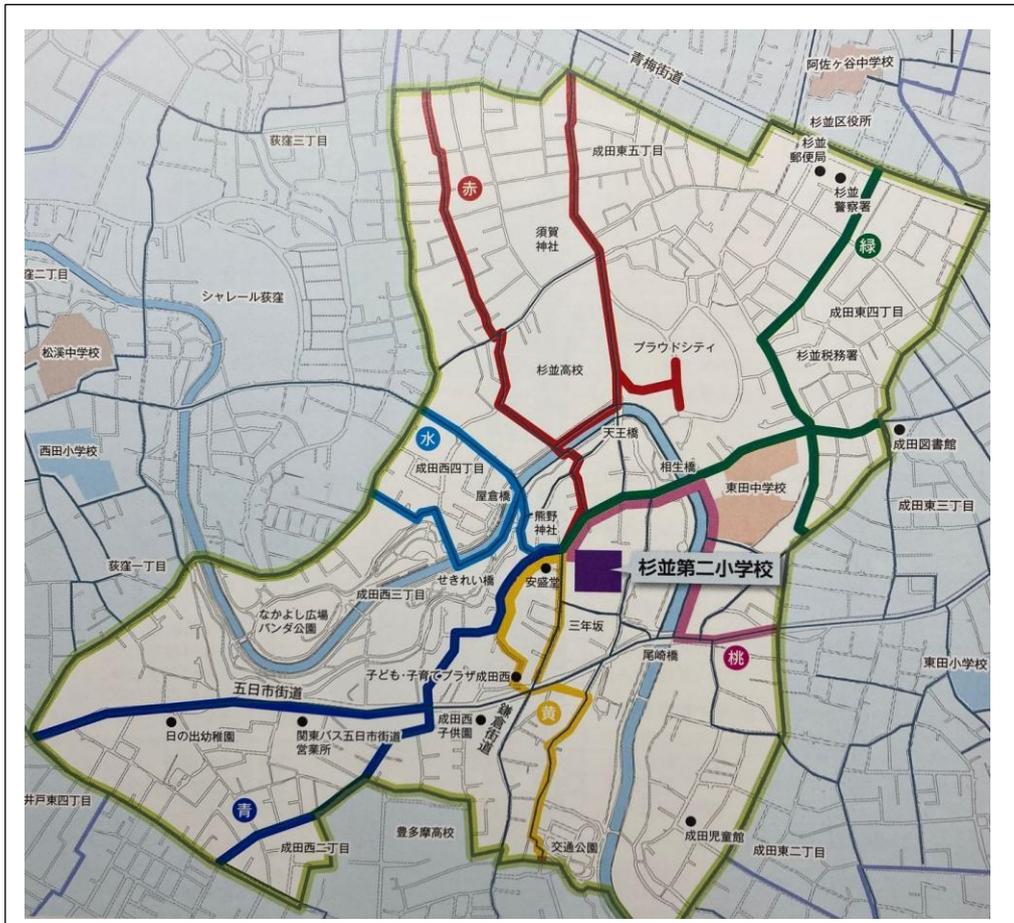


杉並第二小学校 震災救援所について

令和7年11月



震災救援所

震災救援所ってどんなところ

- ★震度5強以上の地震が発生した際に、指定された区立小中学校等に開設されます。
- ★家が焼けたり、倒壊したりして、自分の家にいられなくなった住民が避難したり、救護活動を実施する拠点です。
- ★家が無事で、地域に火災の危険がないなど、在宅避難が可能な場合は、震災救援所に慌てて避難する必要はありません。
- ★震災救援所で在宅避難者登録（受付け）を行うことで、自宅で生活しながら、震災救援所で物資を受け取ることができます。
- ★つまり、地域の救済拠点です。

震災救援所はみんなの家です

- ★震災救援所の運営は、平常時から運営体制の検討や、訓練等を実施している、震災救援所運営連絡会（町会、防災会、区などの運営スタッフ）が中心となって行います。
- ★しかし、地震が起こったときは、運営スタッフも含め、みんなが被災者です。このため、みんなの生活の場である震災救援所の運営や救護活動など、運営スタッフと避難者・在宅避難者がお互いに協力する必要があります。
- ★もし、大地震が発生し、震災救援所に避難したら、どのような協力ができるのか。
 - ・周りの人や家族との融和、譲り合い
 - ・ボランティア登録

2. 震災シミュレーション、被害想定

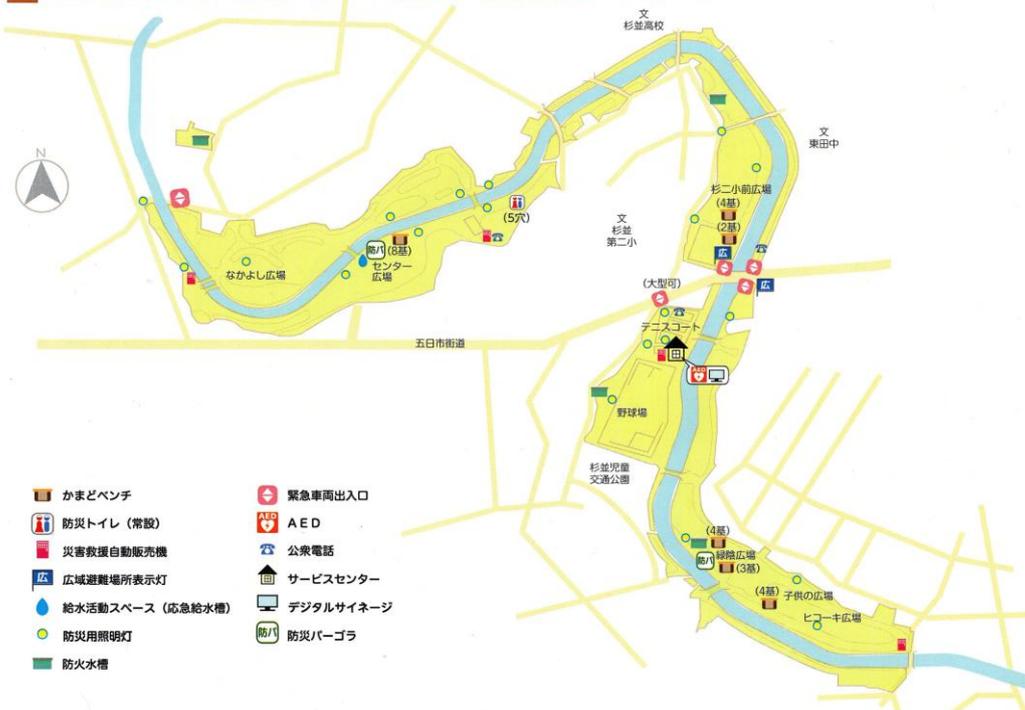
項目	震災シミュレーション(平成27年)の内容 ※令和4年度最新版あるも詳細未開示のため
直面する大震災 (首都直下地震 マグニチュード7.3)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に、27年度末の区内建築物122,904棟の耐震化・不燃化等の状況、地盤データ、消防庁のデータ等を活用して、50メートルメッシュ(50メートル×50メートル)ごとの震度予測や建物被害のシミュレーションを行いました。 杉二小学校学区は震度6強(橙色)と震度6弱(黄色)のエリアに分かれる。震度の違いは、地盤状況や揺れの伝導の違いによるとみられる。それぞれの揺れの程度、建物の揺れ具合は、下記の通り、激しいものと想定してされる。 (震度記載は気象庁震度階級関連解説表より・平成21年3月31日改訂) 第一次交通規制 大地震直後から(甲州街道、環7、環8) 第二次交通規制 被害状況、道路事情に応じ交通規制(青梅街道、五日市街道、井の頭通)



	震度6強	震度6弱
揺れの程度	<ul style="list-style-type: none"> ◆這わないと動くことができない。飛ばされることも。 ◆固定していない家具のほとんどが移動し倒れるものが増える。 ※大きな地割れや地すべりが発生することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆立っていることが困難に。 ◆固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ◆壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
建物の揺れ	<p>耐震性が低い木造建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆壁などに大きなひび割れ亀裂が入るものが増える。 ◆傾くものや、倒れるものが増える。 <p>耐震性が高い木造建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆壁などに大きなひび割れ亀裂が入るものが多い。 	<p>耐震性が低い木造建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆壁などに大きなひび割れ亀裂が入ることがある。 ◆瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 <p>耐震性が高い木造建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆壁などに軽微なひび割れ亀裂がみられることも。

東京都

善福寺川緑地の防災施設マップ



(熊本地震)	
避難者(人)	復旧目途
停電率(%)	1週間
固定電話不通	10日
携帯電話不通	10日
ガス停止(%)	10日
断水(%)	2週間
下水道管きよ被害率	1ヶ月

資料: 国土交通省 国土政策局 国土政策課
 発行: 公益財団法人東京都公園協会

避難者数 (人)



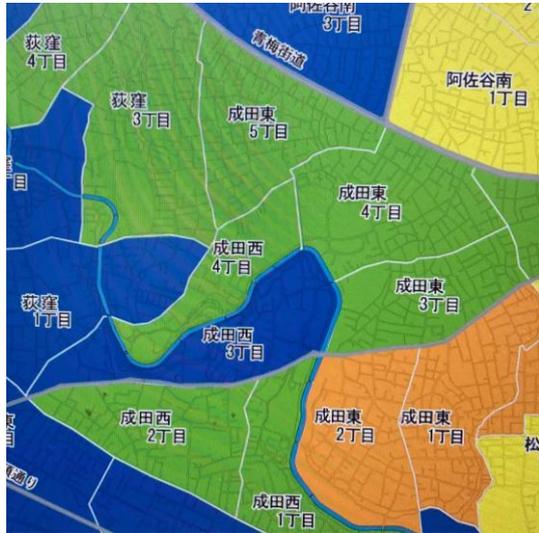
青 ~ 300 人
 空色 300 ~ 600 人
 緑 600 ~ 900 人,
 黄 900 ~ 1200 人
 橙 1200 ~ 1500 人
 赤 1500 ~

停電率 (%)



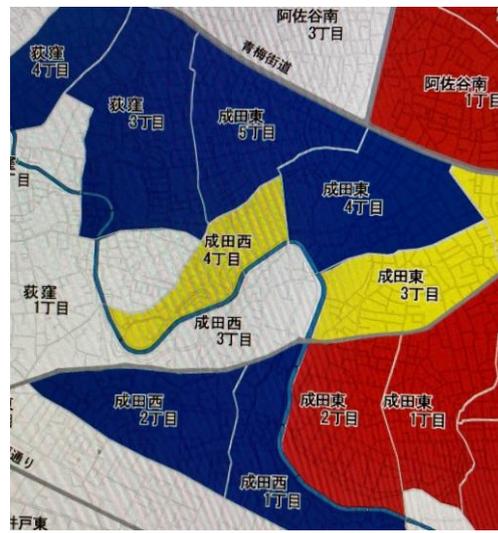
青 0 ~ 20 %、
 緑 20 ~ 40%
 黄 40 ~ 60 %、
 赤 60 ~

固定電話通信不通率 (%)



青 0 ~ 20 %、
 緑 20 ~ 40%
 黄 40 ~ 60 %、
 赤 60 ~

携帯電話不通可能性ランク (%)



青 30 % ~、
 黄 40 % ~、
 赤 50%

ガス供給停止率



赤 → 高い、
 青 → 低い

断水率 (%)



青 0 ~ 20%、
 緑 20 ~ 40%

震災救援所での準備から受付まで

震度 5 強で
自動発生

役員・関係者は鍵を持ち、南門より入る

本部
1F

班→部		準備 (1 時間以内)			受け入れ (3 時間以内)	
1	本部 (総括班) 本部 1F	(1)震災救援所への参集と近隣の被災状況確認、撮影	(2)鍵の受取り			
		(3)開設準備、本部(総括班)の設置	(4)各班の編成			
		(5)情報の収集と本部報告	(6)火災等で開設できない場合の広域避難所への誘導			
		(7)各班からの報告をもとに本部報告				
2	避難者対応班 一般受付		(1)避難者対応班設置	(2)避難者の誘導 杉二小前広場 ※仮設トイレ設置	(1)受付窓口への誘導 杉二小前広場	(2)避難者の受付 1階昇降口
			(3)①検温コーナー設置 杉二小正門(東門)	(3)②一般受付の設置 1階昇降口	(3)避難者の名簿の入力・管理	(4)透析者への対応
			(3)③準備完了の報告		(5)帰宅困難者の対応	(6)体調不良者は専用窓口へ誘導
3	施設安全点検班 本部 1F		(1)①点検班の設置	(1)②施設安全点検セットの入手 本部の隣の倉庫		
			(2)点検開始 体育館から校舎へ完了報告	(3)施設が使用できない場合の対応		
4	衛生班 体調不良受付		(1)①衛生班の設置	(1)②感染症対策セットの入手 本部の隣の倉庫	(1)専用窓口で受け付け 1階昇降口・右	(2)治療の実施
			(2)専用受付の設置 1階昇降口・右	(3)体調不良者専用スペースの設置		
			(5)専用スペースの対応確認と完了報告	(6)分散待機の呼びかけ 杉二小前広場		

君は知っているか、が問題ではない

1

※大震災発生時、自宅でのタイムライン



大地震はここまでで死者9割も

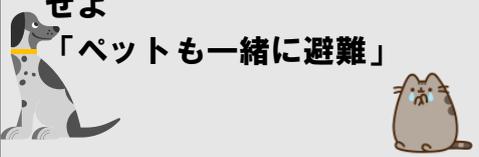
	発生から揺れが収まるまで	揺れが収まったら、直ちに
基本動作	<p>想定震度 6弱・6強! まずは自分自身の命を守れ!</p> <p>※大地震では5分以内の死亡率が約8割</p>	<ul style="list-style-type: none"> いち早く地震情報をキャッチ 家族全員に素早く、安否確認 鉄則、火は小さいうちに消せ!
その場の状況に応じた行動を	<p>●揺れは激しい、立っていることすら困難。揺れは1分は続くと思え</p> 	<p>●大火にしたら取返しがつかないぞ</p> 
日頃からの備え	<ul style="list-style-type: none"> ●安全確保! ぼーとしてないで丈夫な家具の下に潜れ、身構えろ。家の中でも大変だぞ ●脱出口確保! 揺れに応じて玄関を開けろ、慌てて飛出しは危険、用心深く、かつ機敏に <p>※余震にも警戒、情報を取れ!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自宅の中で安全チェックせよ <ul style="list-style-type: none"> 家具類の転倒防止 ガラスの破損・飛散防止 照明器具の落下防止 感震ブレーカーの設置 ●建物耐震補強 (ex.NPO全国耐震防災事業団)、造作(塀等) ●建て替え・新築住宅 (ex.積水ハウス) なら、耐震は勿論、防火壁の役割にもなるぞ 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマホが鳴って通知が来てるはずだ。すぐ詳しく観ろ※NHKテレビをつけて最新情報もつかめ。Dボタンを押し、地元市区町村情報を取れ! ●現状はNHKが一番早い ●スマホlineグループで家族全員と連絡しー安心だ! ※勤務先安否確認 (BCP) も忘れるな! ●個人スマホの事前設定、日常操作できるように→高齢者スマホ教室 ●消火スプレー (ex.丸山製作所) の設置 (ex.台所・寝室・たこ足配線) や消火器操作 <ul style="list-style-type: none"> →街頭消火器の設置場所と使用方法を確認しておけ (消防庁アプリ) ●法定火災警報器の期限切れは?
家族の訓練・体験	<ul style="list-style-type: none"> ●震災シミュレーションに基づく自宅リスク度のチェック ●起震車には乗ってみたか ●非常用持ち出し袋の中味の点検 <p>※人間は、体験を忘れない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●出先でもすぐ震災情報の取れるか、スマホの操作に慣れておけ ●家族震災訓練日を決め、家族全員がすぐ連絡の取れるスマホlineのグループ操作をして互いにチェック ※高齢者の命を守るのはスマホ



即行動できるか、それが日常化だ

2



～半日	半日後～3日目	
<p>自宅避難ができる状況か、判断だ! ご近所仲間は大丈夫か、辺りにも目を配れ</p> <p>●さあ、次は建物損壊状況、電器類、トイレ、お風呂の確認で判断!! ●ライフライン(電気・ガス・水道)は大丈夫か、使えるか ●ご近所の様子も判断材料だ!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>→自宅が無理なら震災救援所へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所は震度5強で開設。開設状況を確認してから ・自宅の戸締り、貴重品等注意せよ <p>「ペットも一緒に避難」</p>  </div> <p>※良い判断は、情報量次第!</p>	<p>自宅で3日間頑張れば、大丈夫! 何とかなるぞ! 1か月もすれば、全国から支援物資は提供される</p> <p>◆自宅避難できる場合</p> <p>●日常化、ローリングストック生活術の発揮だ</p> <p>●備蓄品等で計画的に生活せよ ●ライフライン情報は調達の鍵! ※震災救援所で在宅避難登録を行えば、自宅で生活しながらでも物資を受取れる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>→震災救援所に避難した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活のルールを守る ・活動できる人はボランティア登録し災害弱者・避難者を支援 ・ペットは飼い主が責任を持つ <p>※自宅の用心も忘れるな</p> </div>	<p>基本動作</p> <p>その場の状況に応じた行動を</p>
<p>●基本は自宅避難。だから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災に備えた電器類の事前点検 ・自宅避難を想定した間取り、家具配置、 ・その他テント、寝袋、ランプ <p>※親戚、知人などの避難先想定</p> <p>●事前に「震災訓練所」も見ておこう、訓練にも参加してみれば。特にペット</p> <p>●スマホに避難場所・連絡方法のキープ、保存場所も皆んなで確認</p> <p>●ご近所との顔合わせ、防災訓練をやってみては</p> <p>※人間は高い判断力の生き物だ</p>	<p>●最低3日分の食料・飲料水、家庭内備蓄</p> <p>●ローリングストック生活術</p> <p>※さあ、意識転換だ。これからの当たり前 ※詳細は次頁</p> <p>●復興に向け、家庭BCP的な考え方も視野に入れよ!</p> <p>※罹災証明、保険確認・手続き</p> <p>●家族で震災救援所訓練に参加</p> <p>●スマホに備蓄場所や品目などの写真を撮り・キープ</p> <p>●カセットコンロ・ボンベにも慣れておこう</p> <p>※準備こそ、最大の護身術である</p>	<p>日頃からの備え</p> <p>家族の訓練・体験</p>

震災救援所での本格対応 6時間以内

班→部		3時間以内		6時間以内	
1	庶務・情報部 本部 1F	《1. 震災救援所の運営準備》	4. 災害対策本部との情報管理	2. 運営管理本部会議の開催	
		1. 情報集約・一元化	5. 体調不良者等の報告		
		3. 避難者への情報伝達	9. ボランティア募集		
2	物資等配給部	1. 物資置き場の確保		4. 物資の配布準備	9. 飲料水の供給
		2. 配布場所の確保		5. 物資の配布	10. 生活用水の供給
		3. 配布ルール決定・周知		6. 物資の保管	
3	救護・支援部	1. 傷病者の応急手当	5. マスク着用、手洗いの周知	2. 重傷者の搬送	
4	施設管理部	1. 救援所施設の利用指定	5. 災害時特設公衆電話の設置	2. 携帯電話の充電対応	
		3. トイレの設置、管理	6. 治安対策の実施	4. ごみ集積場の設置、維持管理	
		4. ペットの対応	7. 換気の徹底		
5	衛生班			1. 体調不良者等への配給	

震災救援所での本格対応 1日対応から1週間以降まで

班→部		1日以内	3日以内	1週間以降
1	庶務・情報部	7. 外来者対応	6. 入浴施設の把握	8. 避難者宛の郵便物対応
		12. 野外受入施設の設置	10. 外部支援	13. 震災救援所の縮小、統合
			11. 他避難施設への移動	
2	物資等配給部	7. 支援物資の受入・調達要請		8. 炊き出しの実施
3	救護・支援部		3. 災害時要配慮者への支援	6. エコノミークラス症候群対策の周知
			4. 避難者の健康状態の聞き取り	7. 遺体の搬送
4	施設管理部	8. 施設内清掃		
5	衛生班			

震災救援所におけるペット避難について

- ・本件ペットへの対応は、当杉二小学校震災救援所では未だ取組み方法が固まっておらず、下記基本理念、基本的な考え方に基づき、実践的なマニュアルを通常初動編・運営管理編とは別個に作成する。
- ・また、混乱のないよう、ペット飼育者への訓練やペットを飼育していない人への啓蒙にも取り組みます。
- ・杉二小学校震災救援所管内での犬の想定避難頭数は最大 **60 頭** (令和7年時点)

1. 基本理念

「人もペットも大切な命。一緒にみんなで守り合う」

2. 基本的な考え方

1. ペットも一緒に避難することは「人と動物が共に安全に過ごすため」の仕組みです。※環境省指針
※犬、猫、小動物が対象でケージやクレートで飼育し、脱走されない状況が確実に確保でき、なおかつ、毒性がない等、危険性が低い動物に限ります。
2. 人と動物の動線・居住スペースは完全分離(共生のための配慮)とします
3. ペットの世話は、飼い主責任(食事・用具・清掃・健康管理)で行う
4. 想定外の事態では「協力・臨機応変」に対応し、ペットを飼っている人も飼っていない人も、お互いが気持ちよく、安全に過ごせることを基本とします。
5. 以上のことを「ペット飼育管理者(仮称)」を置き、実践マニュアルに盛り込み徹底します
6. 事前に、飼い主同士が協力して共同で行えるよう、実施訓練を行います

3. 実践マニュアル

1. 飼い主が事前に準備するもの ⇒リーフレットの作成、訓練の実施

- ・ケージやキャリー(普段から慣らしておく)
- ・1か月分のフード・水・薬、および食器類
- ・トイレ・衛生用品(ペットシート・フン処理袋・猫砂など)
- ・首輪・リード・迷子札(犬鑑札・マイクロチップ等)、ペット写真(飼い主確認用)
- ・健康手帳・ワクチン証明があれば持参

2. 震災救援所での流れ

- ・「ペット受付」でペットと飼い主の登録 ⇒学童横駐輪場(仮)
- ・ケージ(飼い主が用意)を所定のエリアに設置 ⇒グラウンド ※ペット飼い主宿泊は校舎1階
- ・飼い主の会を立ち上げ、ペット用初動ボックスを使用して、以下のとおりペット同行避難の受入れを行う

防災倉庫に配備されているペット用防災物品を使用します。

①ペット飼育管理場所の設営	②受付(人の動線と離れた場所に設置)
・タープテント 1張り ・ブルーシート、カラーシート(緑) 各1枚 ・片手ハンマー、養生テープ、軍手 ※ガムテープ(【ペット用名札(ケージ装着用)】をケージに貼り付けるため)	・机 ・「同行避難受付」と記載された掲示物 ・震災救援所ペット登録受付票 (震災救援所ペット対応手引き在中 予めコピーしておく) ・筆記用具

- ・飼い主が毎日、食事・散歩・清掃・体調チェックを実施
- ・当番制で共用エリアを清掃

3. 緊急対応

- ・ペットの体調不良 → 飼い主が一次対応
- ・杉並区と獣医師会が協力して開設する「負傷動物救護所」へ ※常設でなく獣医師が巡回診療。
(東田中学校:成田東 3-19-17 井草中学校:上井草 3-20-11 杉並和泉学園:和泉 2-17-14
高井戸第二小学校:久我山 4-49-1 杉森中学校:阿佐谷北 5-45-24)
- ・重症時 → 獣医師や動物病院へ連絡(行政・協力団体と連携)

【周辺の動物病院】	成田犬猫病院	アンジーペットクリニック	ハナ動物病院
	03-3315-5300	03-6875-5925	03-5913-8241

4. 震災救援所閉鎖時

- ・飼い主は、持参したペット用品をすべて持ち帰り、使用エリアを清掃・原状復帰

ペットを飼っていない方へのご案内(震災救援所用)

1. 人が最優先であること ⇒人とペットの居住スペースの完全分離

- ・ 震災救援所はまず、すべての方の安全と健康を守ることを第一としています。
- ・ ペットは「飼い主の責任」で管理され、人との生活空間は分けられます。

2. ペット受け入れの目的 ⇒ペット同行避難(環境省方針)

- ・ 「ペットを置き去りにするなら自分も避難しない」と人の命に悪影響も
- ・ 震災救援所で受け入れるのは、人とペット双方の安全を守ると共に、放浪ペットによる咬傷事故や環境悪化を防ぐためです。

3. ペット飼育者へのルール ⇒飼い主責任の徹底

- ・ ケージやキャリーでの管理が基本です。
- ・ 餌・水・トイレは飼い主が責任をもって対応します。
- ・ ペット専用エリアを設け、共用空間と分離します。
- ・ 鳴き声やにおい対策、清掃は飼い主が行います。

4. ご理解とお願い

※ペットの飼い方は時代と共に変化し、庭先の犬小屋での番犬飼育から、現代は「ペットも家族」として室内飼いがほぼ定着しています。それに応じて人の意識も、年代により大きく異なり、震災避難の時は、夫々の年代の方々が混在することになります。

- ・ 現在のペット飼育者は「家族同然」と考える人が、ほとんどです。
- ・ その気持ちを理解いただきつつ、運営側では人の安全と快適さを第一に環境を整えます。
- ・ 万一不快に感じる事があれば、運営本部にお声かけください。
- ・ くれぐれも、ペットに手を出したりはしないでください。

※盲導犬、介助犬等は法律により同室を承認されている

「人もペットも大切な命。思いやりと責任で守り合う」



平時からコピーを「避難者登録カード」と一緒に保管しておきましょう

震災救援所ペット登録受付票

※複数のペットがいる場合は一枚に一匹ずつ記入してください

NO.

入所	年 月 日	退所	年 月 日
移動	年 月 日	移動先	
飼い主	氏名（フリガナ）		避難している教室等 避難者登録 No.
	住所		連絡先（携帯番号など）
ペット	呼び名	性別 オス・メス	不妊・去勢 済・未・不明
	種別 犬・猫・その他（ ）	年齢 歳	
	飼育保管場所		
	特徴（品種、毛色など見てわかること）		
	特記事項（持病・疾病・アレルギー・攻撃性の有無など）		
	健康管理等	混合ワクチン	ノミ・ダニの駆除・予防
済・未・不明		済・未・不明	陰・陽（ ）
[犬]フィラリア予防		[犬]鑑札	[犬]狂犬病予防注射済票
済・未・不明		有・無	有・無

確認事項：以下をお読みいただき、同意のチェックをご記入ください。

- 飼い主の会に参加し、飼い主同士協力してペットを飼育・管理します。
 「ペット飼育ルール」を守ります。 ※守れない場合は、退所いただく場合もあります。

名札（ケージ装着用）

名札（飼い主控え用）

震災救援所	
ペット登録 NO.	
ペット呼び名	
飼い主氏名	
飼い主のいる 教室等	
特記事項	

震災救援所	
ペット登録 NO.	
ペット呼び名	
飼い主氏名	
※ペットの世話・連れ出す際は必ず携行してください	

事前にご記入ください

◆杉並区指定用紙

避難者登録カード

太枠の中を記入してください。
※救援物資の配布などに使用しますので、出来るだけすべての項目に回答してください。

登録No. _____ ~ _____

在宅避難の方（救援所ではなく、自宅など救援所以外で生活をし、食糧などの支援が必要な方）は、右記に○をしてください。

①	代表者						住所	杉並区成田西 丁目 番 号	
	入所日時	月	日	時	分	電話	() ()		
②	避難者	氏名	年齢 (1歳未満は月齢)	性別	たすけあいネットワークの登録有無	退所日	救援所での食糧等の配布	所属自治会 町内会名等	西田町会 成二町会 その他
					有・無	/	必要・不要	親族等連絡先	住所 氏名 電話 () ()
					有・無	/	必要・不要		
					有・無	/	必要・不要	③ ペットの同行避難	犬・猫・その他 () 名前 () 特徴 ()
					有・無	/	必要・不要		
					有・無	/	必要・不要	④ 個人情報の取り扱い	ご親族等に安否をお知らせするため、氏名・年齢・性別・入所日・退所日をマスコミに公表したり、他からの問い合わせに対し回答する予定ですが、希望しない場合は、○で囲んでください。 希望しない
			有・無	/	必要・不要				
④	特記事項	<p>*ご家族に、病気や障害など特別の配慮を必要とする人等、注意点があつたらお書きください。 (例 杉並 一郎 耳が聞こえません。情報は、文字で知らせてください。手話ができる方がいると助かります。)</p> <p>* 資格など、協力できることがあれば、氏名と内容を記載してください。 (例 杉並 二郎 介護ヘルパーの資格があります。)</p>							

備考 (避難者が退所した際の退所先など ※本人の同意がある場合)
(救援所運営者のメモ欄)

-----キ リ ト リ----- (避難者本人の控え)

避難者登録カード (控)

登録 No. _____ ~ _____

登録人数 _____

代表者 _____

※裏面の注意事項を確認してください。